

NPO法人ICDSによる 地域若者サポートステーション 運営の現状

NPO法人ICDS 理事長 深谷 潤一

ICDSの運営するサポステの基本情報

	なごやサポステ	岐阜県サポステ
運営開始	平成19年7月～	平成20年4月～
所在地	名古屋市北区柳原3-6-8 名古屋市青少年交流プラザ1F	岐阜市藪田南5-14-12 岐阜県シンクタンク庁舎2階
	地下鉄名城線・名城公園駅より徒歩7分	JR西岐阜駅より徒歩20分(来年度JR岐阜駅近くの市施設へ移転予定)
サテライト	名古屋市青少年宿泊センター内	①高山市:市役所他 ②郡上市:市役所大和庁舎
自治体の補助	臨床心理士・精神科医の人件費(名古屋市)	臨床心理士・広報担当の人件費+サークル、キャラバン等経費のほか、家賃・水道光熱費(岐阜県)
ハローワークとの連携	ヤングジョブあいち等と現場レベルで連携(例:ハローワーク職員に対するサポステ説明会実施)	同フロアにジョブカフェがあり、現場レベルで連携(例:利用者が求人検索する際のサポステ職員同行など)
職員数	13名(うちキャリアコン有資格者8名)	10名(うちキャリアコン有資格者8名)

利用者属性(平成25年度 なごや・岐阜県)

性別		男	女
	%	58.1	41.9

年代		15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
	%	8.7	24.9	29.1	20.3	17

ひきこもり 歴		最近まで (3カ月以内)	かつて 経験あり	経験なし	データなし
	%	11.2	9.2	54.6	25

○ 主な来所のきっかけは、市政だより(なごや)、回覧板(岐阜)、HWや精神保健福祉機関からのリファーマなど。

支援内容一覧

サポステ実施メニュー

自治体事業メニュー

ICDS自主事業

定着

ステップアップ事業
(就職後の職場定着を支援)

就職

就トレ(な)・就活サークル(岐)
(模擬面接・書類添削・筆記試験対策・
業界研究・選考報告)

ホンキの就職 ※
(グループワークを通じた応募活動への動機づけ)

若者UP ※
(PCスキル講習)

集中訓練プログラム
(合宿を含む集中支援)→例①

ジョブトレ

(提携企業でのインターンシップ)→例③

職業人セミナー
(仕事理解、業界人講話)

SCT(コミュニケーションサークル)
(社会的コミュニケーション訓練)→例②

ソーシャルサークル
(エコキャップ・挨拶運動などボランティア)

プロジェクトS(な)・若者親睦会(岐)
(関係作り・自主性開発グループワーク)

学びなおし(な)
(高校入試レベルまでの学習支援)

臨床心理相談

・「な」はなごやサポステのみ、「岐」は
岐阜県サポステのみのメニュー。

※ 民間企業がプログラム開発してサポステスタッフが実施する事業。

支援メニューの例①

集中訓練プログラムー1

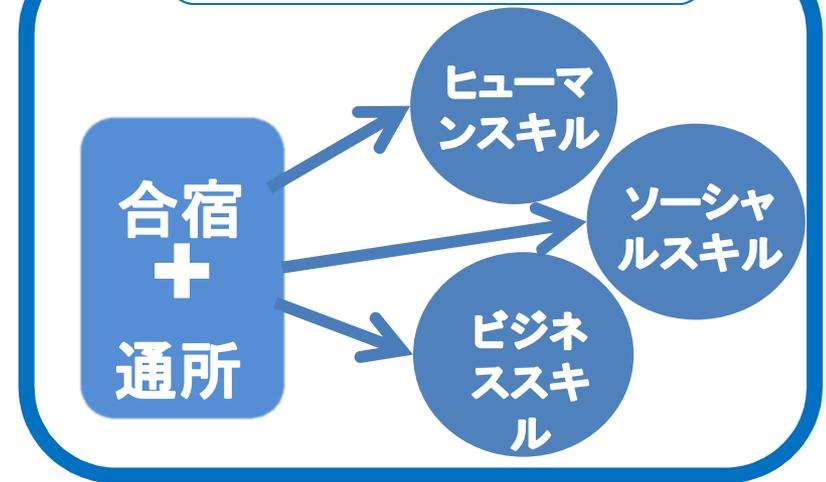
(ねらい)

就労に向けて、あと一歩が踏み出せない若者に3ヶ月間の集中プログラムを実施することで80%以上の進路決定を目指す

(対象)

- ・働く意欲はあるが、社会に出ることに不安な方
- ・就職活動を始めたいが、初めの一歩が踏み出せない方

確かな就職を目指す
集中プログラム

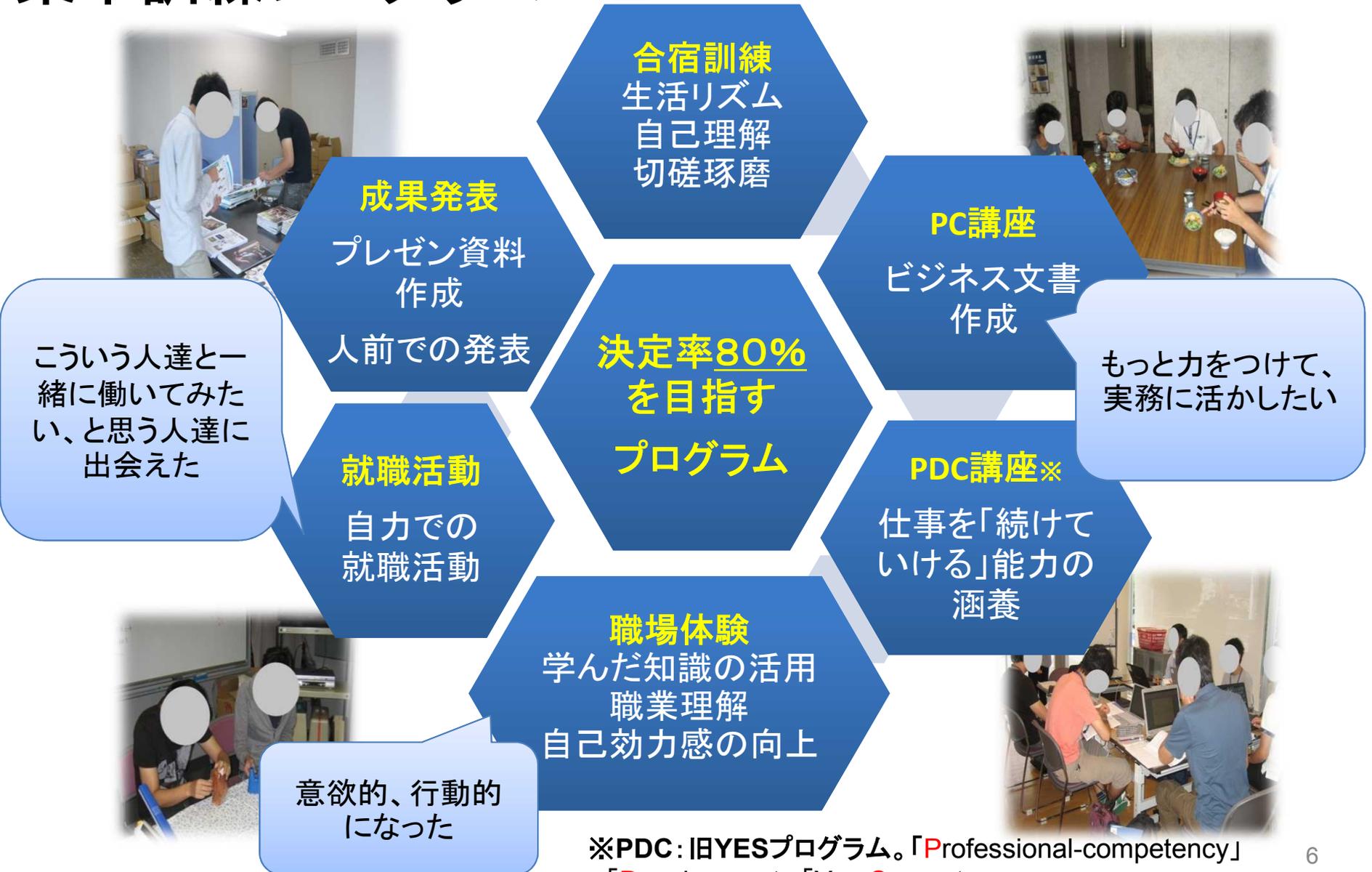


(概要)

- ・合宿訓練(1ヶ月)を含む3ヶ月間の集中プログラム
- ・充実した職場体験
- ・きめ細やかなフォローアップ
毎日の目標設定と振り返り
スタッフ間での情報共有

支援メニューの例①

集中訓練プログラム-2



※PDC: IYESプログラム。「Professional-competency」「Development」「You Can get」

支援メニューの例② 【自治体事業メニュー】

SCT (Social Communication Training)

(ねらい)

グループワークを中心に、基本的なコミュニケーションスキルを習得する

(対象)

- ・人と関わることに苦手意識のある方
- ・就職活動直前に、コミュニケーション力を身につけたい方

(概要)

- ・「自己理解」「他者理解」
- ・「話す」「聞く」の基本トレーニング
- ・グループディスカッション
- ・チームビルディング
- …などの実践的なワーク

(心がけている点)

- ・参加者のスキルレベルに合わせた対応をする
- ・個人の特性に配慮する
- ・目標設定と振り返りをする

支援メニューの例③ 【ICDS自主事業】

ジョブトレ

（概要）

- ・企業での補助業務を体験
- 随時実施（1回2～6時間程度）

（対象）

- ・職業経験の少ない方
- ・働くことに自信がない方
- ・現場を実体験したい方



（ねらい）

- ・仕事に必要な態度・意識を習得



事例① なごやサポステ

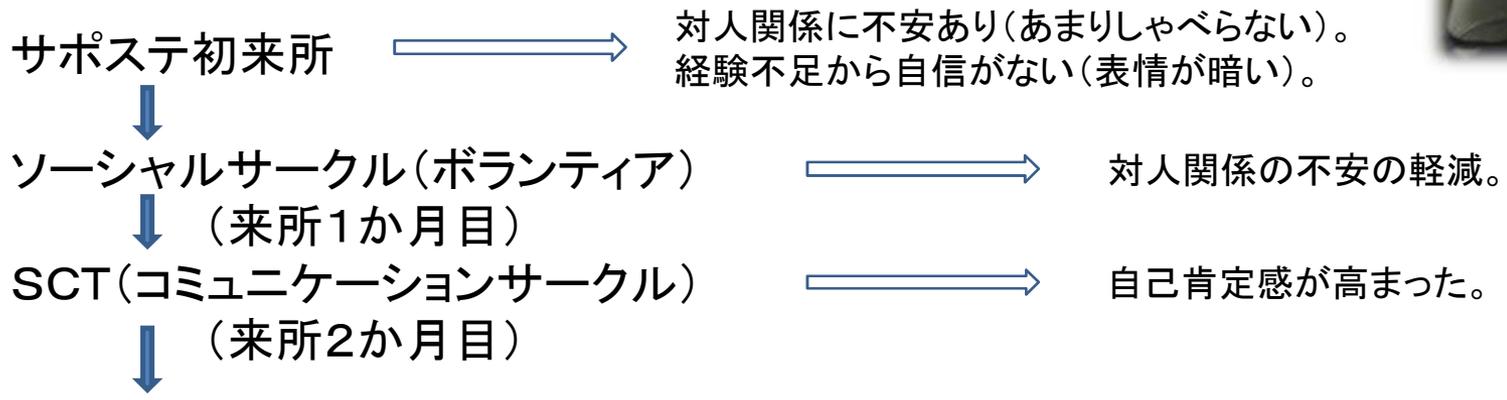
- 25歳男性 大学卒業後、無職期間1年半
- 自分に自信がなく最初から諦めてニート生活へ
- ハローワークへ通うも求人応募の勇気持てず
- ハローワークの紹介により「なごサポ」へ
- 面談、サークル活動を経て『就トレ』へ
- 『就トレ』で、仲間たちと励ましあいながら集団生活等を乗り越えていくことで徐々に自信を回復
- 特に『ジョブトレ』先では仕事に対する視野の広がりや「まずはやってみる」ことの大切さを実感
- 『就トレ』修了後、システムオペレータとして就業
- 定着支援を受けながら現在も上記勤務を継続中



事例② 岐阜県サポステ



Aさん(20代前半女性)
中学校1年生から不登校、高校(通信制)卒業後2年間ひきこもり状態



ジョブトレ内容 : 病院内清掃 1日3時間

患者さんのいない病棟やトイレの清掃
(来所3か月目・ジョブトレ1回目)

↓

患者さんのいる病室の清掃&ベッドメイク
(来所5か月目・ジョブトレ6回目)

↓

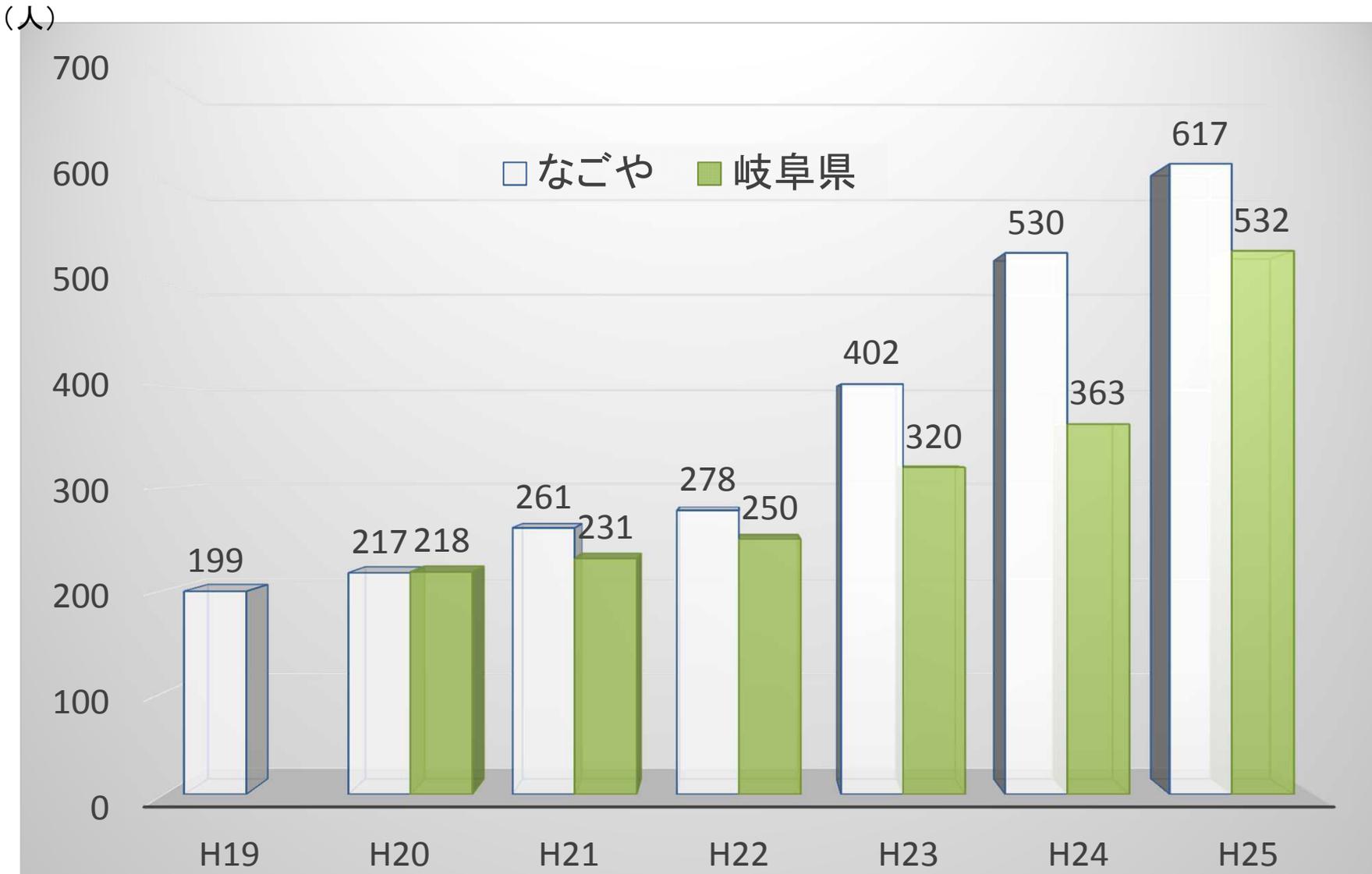
初めて参加した他の利用者への指導
(来所7か月目・ジョブトレ12回目)

振り返りシートに記入された本人の感想

- ・あまり声が出せなかった。
- ・立ち仕事が多くて足が痛かった。
 - ↓ 私にもできることがあるのだと分かった。
 - ↓ あいさつができるようになった。
 - ↓ 効率よく作業ができるようになりたい。
 - ↓ 初めて参加した他の利用者に教えることができた。
 - ↓ 患者さんへの声掛けができるようになった。

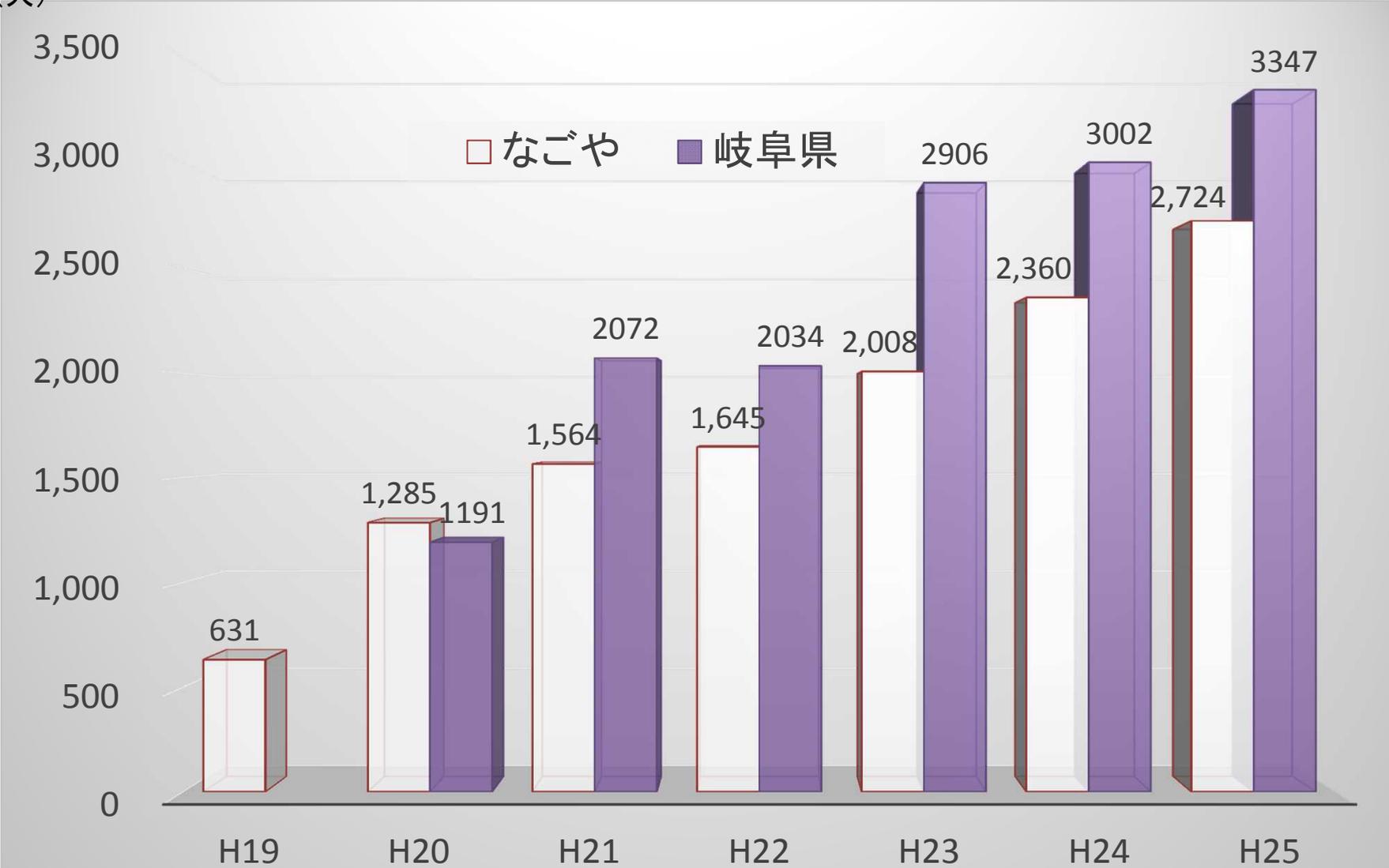
※その後、清掃業での就労を果たし、2年継続中。

実績① 新規登録者数

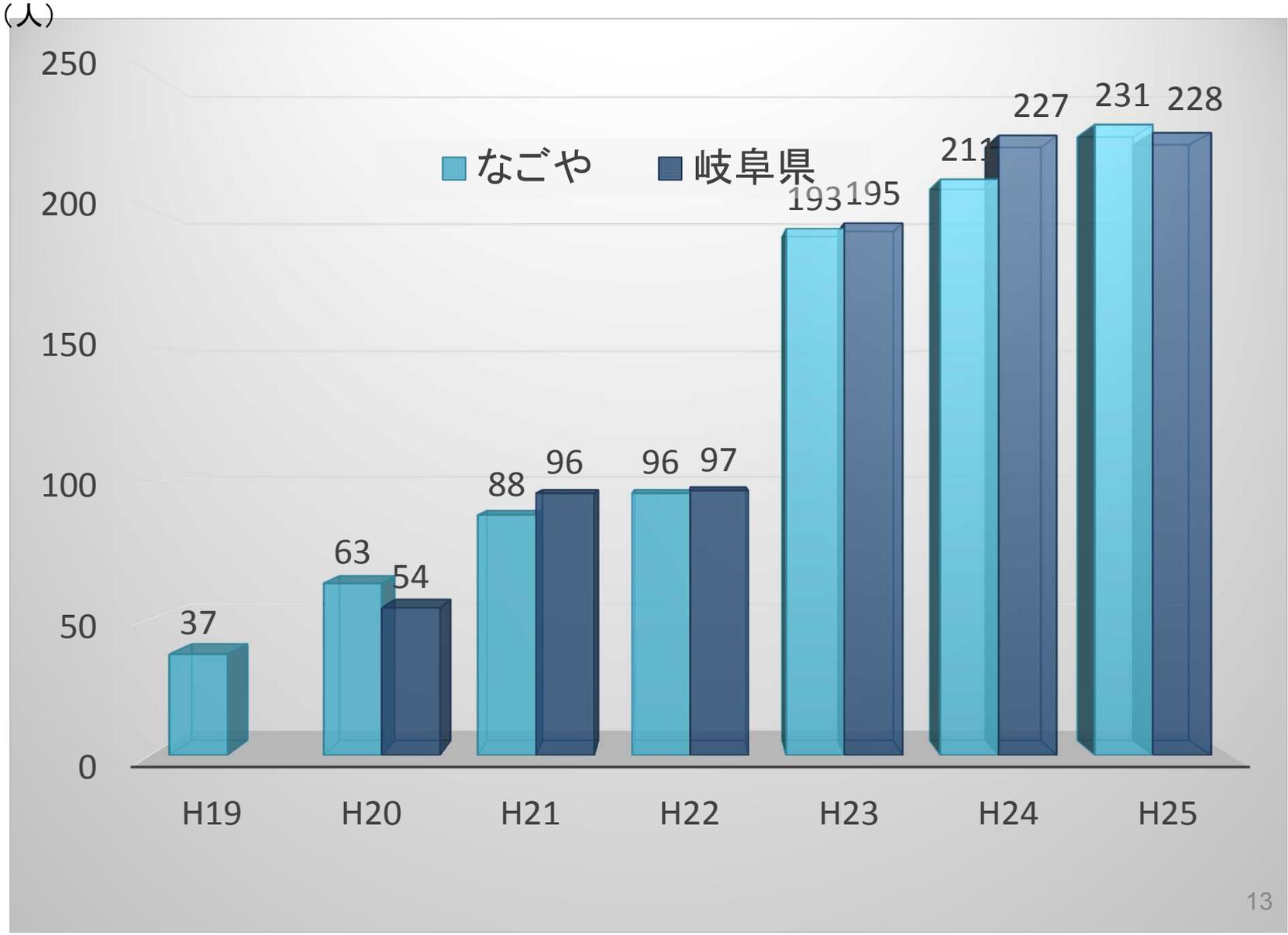


実績② 相談件数

(人)



実績③ 進路決定者数



実績④ サポステの効果測定

(関西大学大学院 心理学研究科 社会心理学専攻 深谷 潤一)

調査の概要

- ・「なごやサポステ」、「岐阜県サポステ」等の利用者(15~39歳のニート状態の者)に質問紙調査を実施(調査対象206名、有効回答205名 平均26.7歳)。
- ・t検定及び2要因分散分析を通じ、**支援開始時とその3か月後における各種指標の比較を行った。**

調査結果

- ①ソーシャル・スキル(KiSS-18尺度 菊池(1988b)) ⇒**優位に向上。p<.001**
- ②キャリア成熟度(人生キャリア・レディネス/職業キャリア・レディネス(LCR尺度、OCR尺度 坂柳1996)(※1) ⇒**概ね優位に向上。一部因子を除き p<.001**
- ③進路決定自己効力(CDMSE-U:J尺度 富安1997)(※2) ⇒**優位に向上。p<.001**

また、調査対象者の年齢層・学歴にかかわらず、これらサポステ支援の有効性が示された。

※1 「キャリア成熟度」: キャリアの選択・決定やその後の適応への個人のレディネスないし取り組み姿勢。(坂柳1991)

※2 「進路決定自己効力」: 進路選択に対する自己効力感。これの高い者は、進路選択行動を活発に行い、努力をする。(富安1997)

若者支援・サポステ運営に関する課題

1 事業の安定的な運用

長期的な事業計画や支援プランの設定が不可能。サポステ職員(支援人材)の流動化、希望の持てない働き方。年度ごとの方針変更により、連携関係機関が困惑。

2 位置付けの明確化

雇用対策、福祉、教育等、サポステの位置付けが不明確でリソースの活用不十分。地方行政からの理解・支援も必要。

3 利用者数や進路決定者数以外のアウトカム指標の評価

4 委託費の積算根拠の見直し

契約単年だがリース費用は複数年。精算手続きが複雑すぎて本業以外に大きな労力がかかる。

ご静聴有難うございました。

サポステ支援の効果測定

(関西大学大学院 心理学研究科 社会心理学専攻 深谷 潤一)

調査の概要

方法

川崎(2000)は「キャリア決定自己効力」の測定は介入(支援)の効果を検討するのに適切であるとしており、本研究では「サポステ」等の利用者に対して、利用開始直後とその概ね3カ月後に「キャリア決定自己効力」と、それに関連があるとされる「ソーシャルスキル」や「キャリア・レディネス」について以下の調査を行った。

1. 調査対象

「サポステ」2か所と、支援内容が類似している岡崎市から受託している施設1ヶ所の15～39歳のNEET状態の利用者206名。

2. 調査実施時期および手続き

2013年7～翌年6月に質問紙調査を実施。下記3.1)～4)を利用開始時(初回面談等の後)に、3.2)～4)は、概ね3か月後、個人面談の際に回答を依頼し回収。併せて、参加支援プログラムの種類、参加数、進路決定等を個別管理、記録した。

3. 質問紙の構成

- 1) フェイスシート: 性・年・最終学歴・過去の経験についてたずねた。
- 2) KiSS-18: 菊池(1988b) ソーシャル・スキル尺度
- 3) キャリア・レディネス: 坂柳(1996)「人生キャリア・レディネス(以下、LCR)尺度」と「職業キャリア・レディネス(以下、OCR)尺度」
- 4) 「キャリア決定自己効力」: 富安(1997)の「進路決定自己効力尺度(CDMSE-U:J)」5因子54項目中、第1因子「進路選択」の14項目を用いた)

結果

1. 調査協力者の属性: 回答数206名、有効回答数205名(男:128名、女性:77名)。期間中の進路決定68名、未決定137名、就労経験は未経験と1か所の事業所での最長経験が1年未満の者の合計が121名、1か所での最長経験が1年以上の者が84名。平均年齢26.7歳、最年少17歳、最年長39歳。

2. KiSS-18

- 1) 因子分析結果: 3因子構造とした。(最尤法・プロマックス回転)
- 2) 支援開始直後と3か月後の比較結果

*t*検定の結果、全因子 $p < .001$ であり、3ヶ月経過後の結果は、支援開始直後の結果より有意に高まっていることが明らかになった。

3. LCR、OCR

- 1) 因子分析結果: LCR・OCRともに3因子構造とした。(方法同上)
- 2) 支援開始直後と3か月後の比較結果

*t*検定の結果、OCRの第2因子のみ有意確率 $p = .025$ であったが、他は全て $p < .001$ で有意であった。

4. CDMSE-U:J

- 1) 因子分析結果: 2因子とした。(方法同上)
- 2) 支援開始直後と3か月後の比較結果

*t*検定を実施した。結果は、2因子とも $p < .001$ で有意であった。

表 1 KiSS-18 因子分析結果（最尤法-プロマックス回転）

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
第 1 因子【トラブル適応力】 $\alpha = .863$			
8 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか。	.932	-.155	.044
17 まわりの人たちが自分と違った考えを持っていても、うまくやっていますか。	.613	.160	-.128
11 相手から非難されたときにも、それをうまく片付けられますか。	.519	.280	.060
6 まわりの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか。	.428	.174	.331
7 こわさや恐ろしさを感じたときに、うまくそれを処理できますか。	.371	.344	.032
第 2 因子【状況対応力】 $\alpha = .889$			
2 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。	.017	.686	.075
14 あちこちから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか。	.163	.684	-.097
12 仕事上で、どこに問題があるかすぐにみつけることができますか。	.282	.552	-.007
3 他人を助けることを、上手にやれますか。	.113	.551	.177
13 自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか。	-.316	.536	.396
9 仕事をするとときに、何をどうやったらよいか決められますか。	.375	.478	-.043
4 他人が怒っているときに、うまくなだめることができますか。	.213	.450	.095
18 仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じないほうですか。	.263	.408	.128
16 何か失敗したとき、すぐに謝ることができますか。	.120	.384	.017
第 3 因子【対話力】 $\alpha = .818$			
5 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか。	.068	-.122	.917
10 他人が話しているところに、気軽に参加できますか。	.206	-.064	.708
15 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか。	-.126	.255	.586
1 他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか。	-.034	.255	.442
因子間相関	第 1 因子	.712	+.640
	第 2 因子	+	+.689
	第 3 因子	+	+

表 2 KiSS-18 各因子の利用開始直後-3 カ月後の t 検定結果

	対応サンプルの差				
	平均値	標準偏差	t 値	df	有意確率 (両側)
第 1 因子開始直後-3 か月後	-.95588	2.76377	-4.940	203	.000
第 2 因子開始直後-3 か月後	-1.56931	3.92563	-5.682	201	.000
第 3 因子開始直後-3 か月後	-1.19024	2.39442	-7.117	204	.000

表3 LCR 因子分析結果 (最尤法-プロマックス回転)

	第1因子	第2因子	第3因子
第1因子【キャリア・パースペクティブ】 $\alpha = .868$			
19 希望する生き方を送るための具体的な計画を立てている。	.900	-.009	-.045
25 充実した人生を送るための計画に沿って、すでに取り組んでいることがある。	.734	.003	.007
26 これからの人生設計は、自分の個性と社会状況の両面から十分考えている。	.699	-.063	.054
23 これから先どのような人間になりたいのか、自分なりの目標を持っている。	.618	.013	.147
21 自分の今後の人生は、だいたい想像できる。	.587	-.288	.015
27 今希望している人生や生き方は、自分なりに実現できそうだと思う。	.562	.235	-.041
第2因子【セルフ・エフィカシー】 $\alpha = .852$			
14 これからの人生は、自分で責任を自覚して送ろうと思う。	-.222	.966	.066
13 どんな生き方をしていけばよいかは、最終的には自分自身の責任で決める。	-.226	.891	.001
17 今後の人生で困難なことに突き当たっても、自分なりに克服していこうと思う。	.200	.565	.025
10 これからの人生は、自分の力で切り開いていくことができる。	.427	.478	-.156
18 人生を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする。	.402	.444	-.048
第3因子【キャリア・デザイン情報への関心】 $\alpha = .851$			
4 希望する人生を送るにはどうすればよいか、調べたことがある。	.086	-.172	.833
5 どのような人生・生き方があるか、本や新聞などで読んだことがある。	-.086	-.015	.741
7 どのような生き方が自分に向いているのか、真剣に考えたことがある。	-.025	.151	.808
6 今後の人生を充実させるために参考となる話に、耳を傾けるようにしている。	-.043	.288	.807
2 人生設計や生き方についての記事には、よく目を通すようにしている。	.306	-.069	.515
1 これからの人生や生き方について、とても関心を持っている。	.168	.122	.418
因子間相関	第1因子	.656	.687
	第2因子		.599
	第3因子		
剰余項目			
3 人生設計や生き方にはあまり関心がない。			
8 自分は何のために生きていくのか、真剣に考えたことがない。			
9 将来の生き方は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。			
11 人生をどう過ごすかは、他の人が考え始めるころに、自分も考えればいい。			
12 これからの人生をどう過ごすかは、周囲の雰囲気にあわせて決めようと思う。			
15 まだしばらくの間は、責任のある生活はしたくない。			
16 希望する人生を送れるように、日頃から自分を向上させるよう心掛けている。			
20 自分は将来どのような人生を送っているか、わからない。			
22 どのような生き方をしたいか、まだわからない。			
24 今希望している生き方は、またすぐに変わるかもしれない。			

表4 OCR因子分析結果(最尤法-プロマックス回転)

	第1因子	第2因子	第3因子
第1因子【職業選択への関心】 $\alpha = .884$			
1 将来の職業や就職について、とても関心を持っている。	.838	-.001	-.077
6 将来、充実した職業生活を送るために参考となる話は、注意して聞いている。	.762	.033	-.030
4 希望する職業に就くにはどうすればいいか、調べたことがある。	.661	.024	.061
2 職業や就職に関する記事には、よく目を通すようにしている。	.660	-.097	.164
9 職業選択や就職は自分ににとって重要な問題なので、真剣に考えている。	.580	.353	-.155
5 将来の職業や就職先について、いろいろと比較し検討している。	.559	-.097	.366
25 職業選択や就職は、自分の個性と就職機会の両面から十分考えている。	.525	.039	.081
7 どのような職業が自分に向いているのか、真剣に考えたことがある。	.508	.196	-.056
第2因子【職業人意識】 $\alpha = .863$			
10 職業人になったら、自分から進んで積極的に仕事を行おうと思う。	-.034	.845	.062
14 職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う。	.096	.821	-.228
18 職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい。	.121	.662	-.033
17 職業生活を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする。	-.117	.647	.308
16 職場で難しい問題にぶつかっても、自分なりに克服していこうと思う。	.067	.641	.041
12 職業の選択・決定では周囲の雰囲気には流されることはない。	-.085	.451	.167
第3因子【就労へのレディネス】 $\alpha = .834$			
19 希望する職業に就くための具体的な計画を立てている。	.047	.088	.762
21 自分の将来の職業生活の様子は、だいたい想像できる。	-.080	-.073	.711
11 就職の準備は、他の人から言われなくても自主的に進めることができる。	.035	.207	.657
26 すでに計画に従って就職試験のための勉強(準備)をしている。	.344	-.077	.544
因子間相関		.658	.654
			.546
			-.
剰余項目			
3 将来の職業生活をどう過ごすかは、あまり関心がない。			
8 自分は何のために働くのか、真剣に考えたことがない。			
13 充実した職業生活を送れないのは、自分自身の責任が大きいと思う。			
15 職業人になっても、責任の重い仕事はやりたくない。			
20 自分は将来どのような職業についているか、わからない。			
22 どのような職業に就きたいか、まだわからない。			
23 どのような職業人になりたいのか、自分なりの目標を持っている。			
24 今希望している職業は、またすぐ変わるかもしれない。			
27 就きたい職業は決めたが、それに向けての積極的な努力は特にしていない。			

表 5 LCR 各因子の利用開始直後-3 カ月後の t 検定結果

	対応サンプルの差				有意確率 (両側)
	平均値	標準偏差	t 値	df	
第 1 因子開始直後-3 か月後	-1.60000	3.64826	-6.279	204	.000
第 2 因子開始直後-3 か月後	-.77451	2.60695	-4.243	203	.000
第 3 因子開始直後-3 か月後	-1.31707	3.24520	-5.811	204	.000

表 6 OCR 各因子の利用開始直後-3 カ月後の t 検定結果

	対応サンプルの差				有意確率 (両側)
	平均値	標準偏差	t 値	df	
第 1 因子開始直後-3 か月後	-1.767	5.086	-4.938	201	.000
第 2 因子開始直後-3 か月後	-.473	3.009	-2.251	204	.025
第 3 因子開始直後-3 か月後	-.862	2.346	-5.235	202	.000

表 7 CDMSE-U : J 因子分析結果 (最尤法-プロマックス回転)

	第 1 因子	第 2 因子
第 1 因子【自己の将来の意義づけ】 $\alpha = .907$		
1 将来就きたい仕事、自分の人生の中でどのような意味を持つのか明確にできる。	.856	-.057
2 今後 5 年間の進路 (就労) 目標を思い描くことができる。	.846	-.010
3 自分にとっての理想の職業を明確にできる。	.805	-.050
4 自分の将来の姿を想像することができる。	.758	.009
7 将来就きたい職業に関する仕事上の義務を述べるることができる。	.642	.130
5 就労の目的や意味を明確にできる。	.590	.246
第 2 因子【就労行動への自信】 $\alpha = .911$		
13 就労目標達成のための勉強や準備には、自主的に積極的に取り組むことができる。	.023	.832
8 資格取得の試験や就職活動までの時間的展望をもって、計画的に勉強や準備できる。	-.028	.825
10 希望の職業は空想的でなく現実的である。	-.130	.801
11 自分のライフ・スタイルにあう進路 (就労先) を選ぶことができる。	.096	.637
14 自分の就労の目標を実現するために、最優先すべきことを見極めることができる。	.251	.637
12 TV、Web や新聞で就労に関する報道があると、興味をもって接することができる。	.098	.548
6 進学や職業訓練、資格取得の目的や意味を明確にできる。	.421	.449
9 職業において自分が何を最も重視すべきかを明確にできる。	.371	.407
因子間相関	第 1 因子	.775
	第 2 因子	-.4

5. KiSS、LCR、OCR、CDMSE-U:Jの2要因分散分析 (反復測定) (利用開始直後・3カ月後) × 群の2要因分散分析を実施。

群は

- ①年齢(15～24歳とそれ以上)
- ②最終学歴(中卒～短専卒までと大学進学以上)
- ③キャリア・コンサルティング回数(期間中8回未満と以上)、
- ④進路決定(期間中に決定と未決定)
- ⑤各支援プログラムへの参加度合をとりあげた。

結果

- ・①②は②でOCR第3因子のみ $p < .05$ と僅かに有意差が見られたが、それ以外の因子には、有意差は見られなかった。
- ・③は、KiSS第1・3因子、OCR第2因子で有意差が見られた。
- ・④は、KiSS第2因子、LCR全因子、OCR第3因子、CDMSE-U:Jの全因子で有意差が確認された。
- ・⑤の中で就活プログラムへの参加に関して、KiSS第1・2因子、OCRの全因子で有意差が確認された。

Kiss-18各因子の利用開始直後－3カ月後の t検定結果

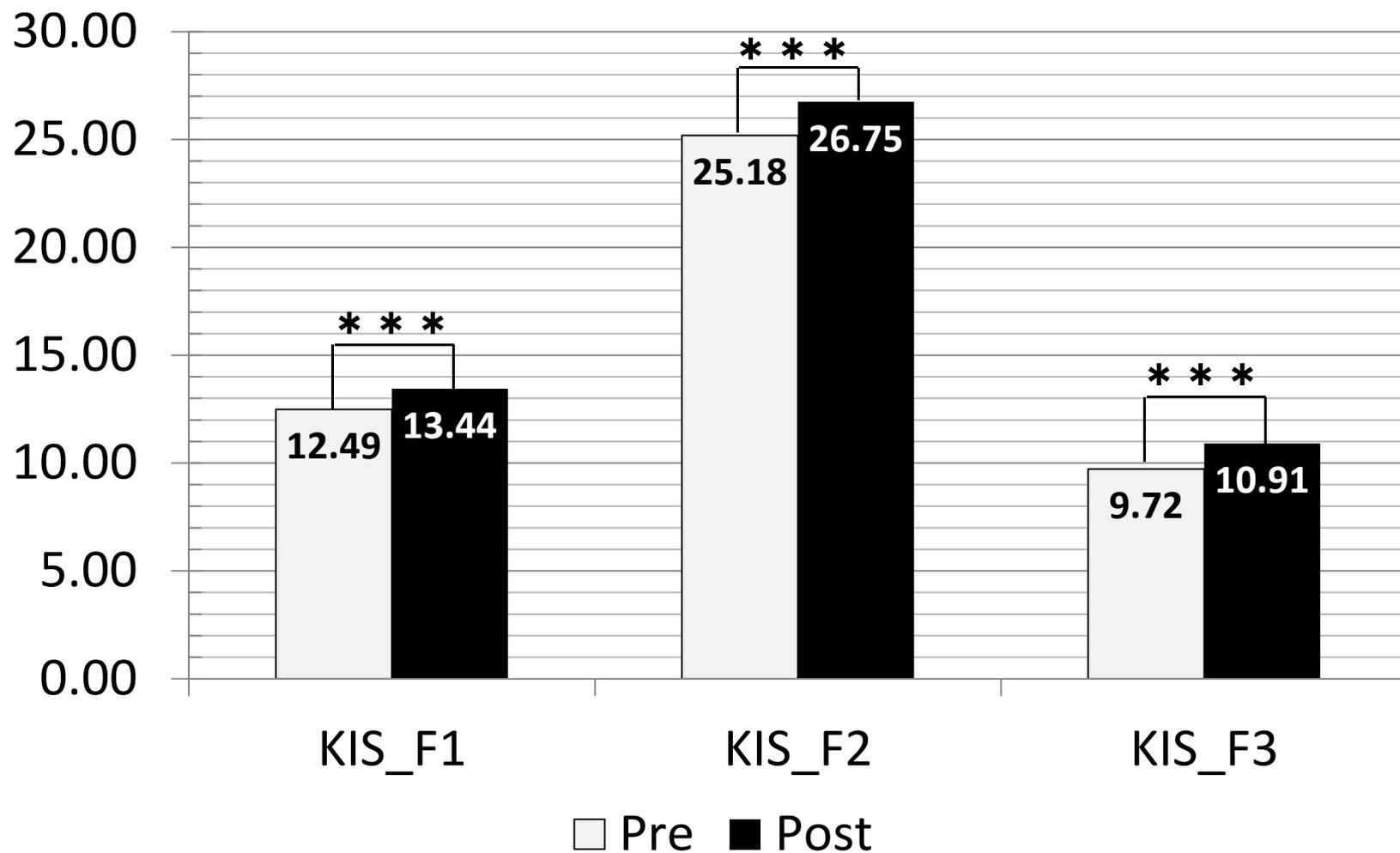


Figure1 Kiss得点(利用開始直後－3か月後)

Kiss-18各因子の利用開始直後－3カ月後の t検定結果

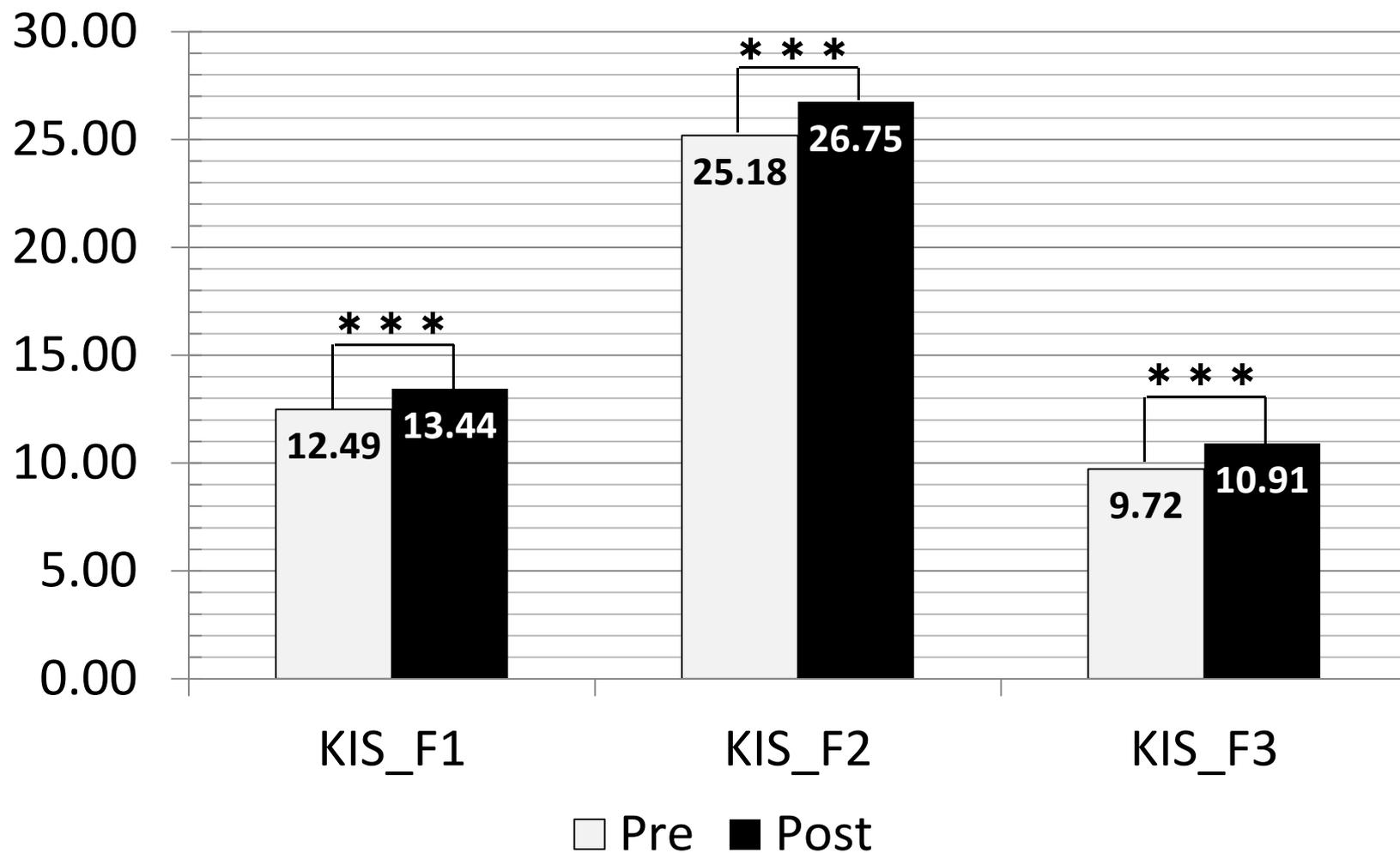


Figure1 Kiss得点 (利用開始直後－3か月後)

LCR各因子の利用開始直後－3カ月後のt検定結果

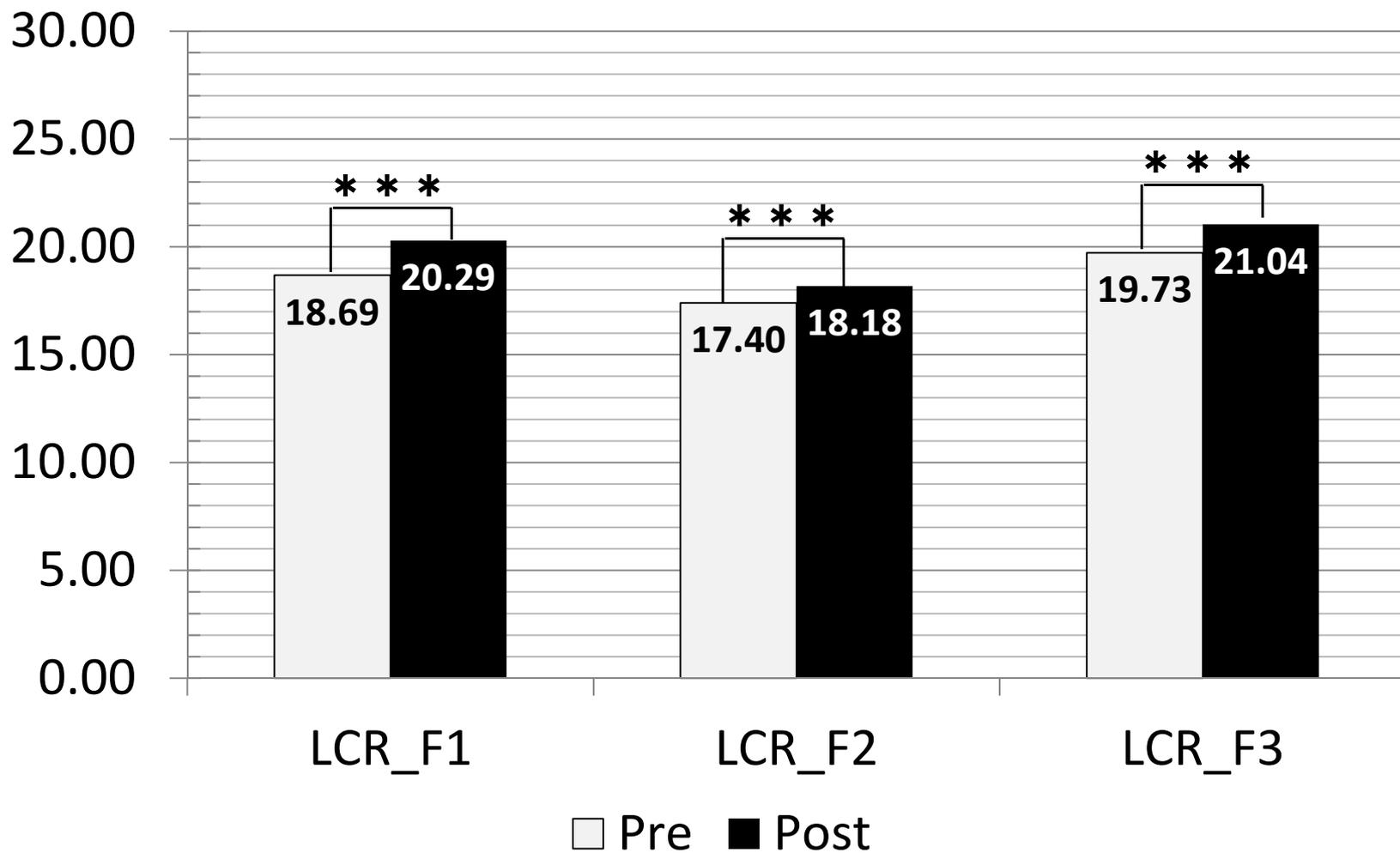


Figure2 LCR得点(利用開始直後－3か月後)

OCR各因子の利用開始直後－3カ月後の t検定結果

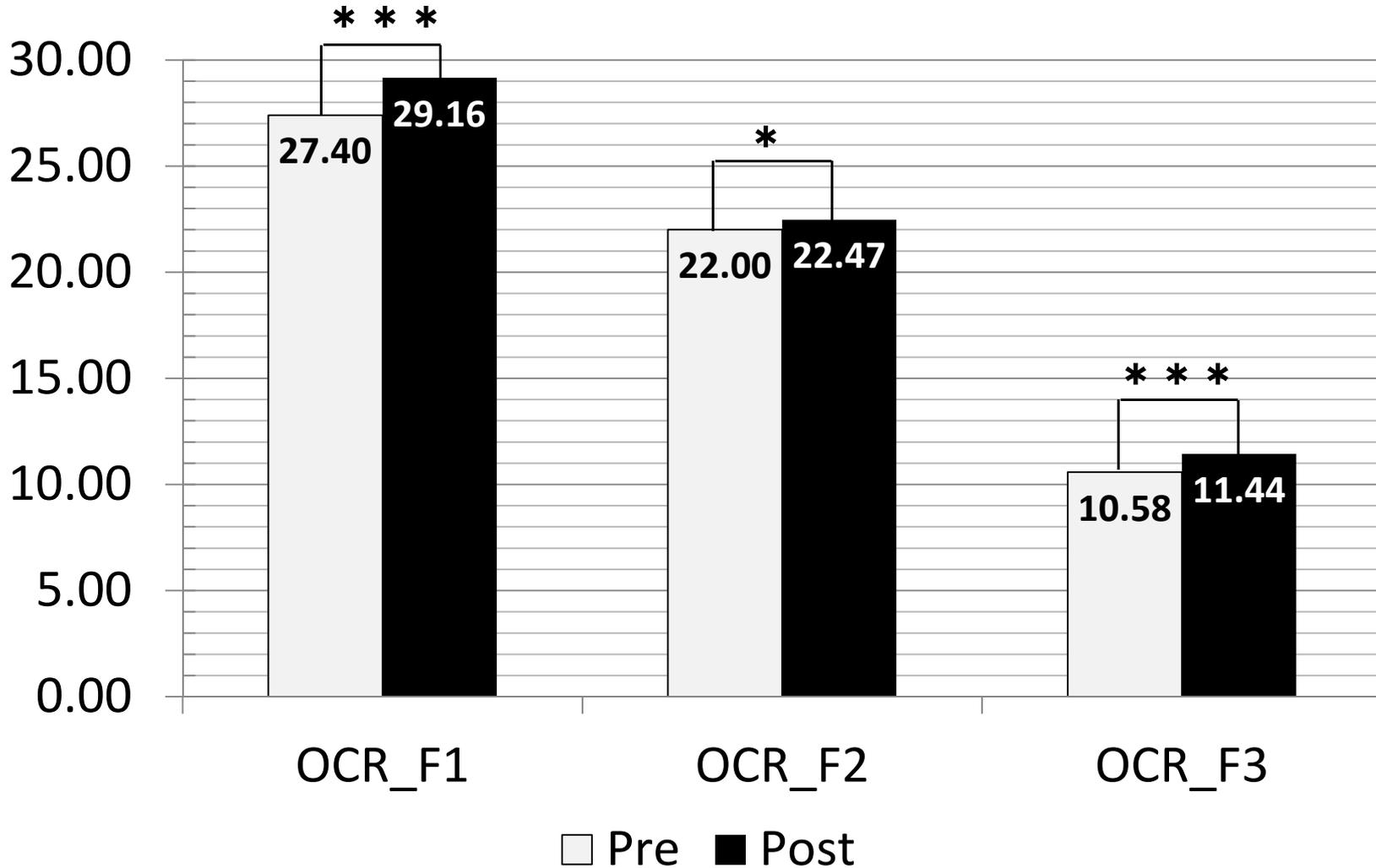


Figure3 OCR得点(利用開始直後－3か月後)

CDMSE-U: J各因子の利用開始直後－3カ月後の t検定結果

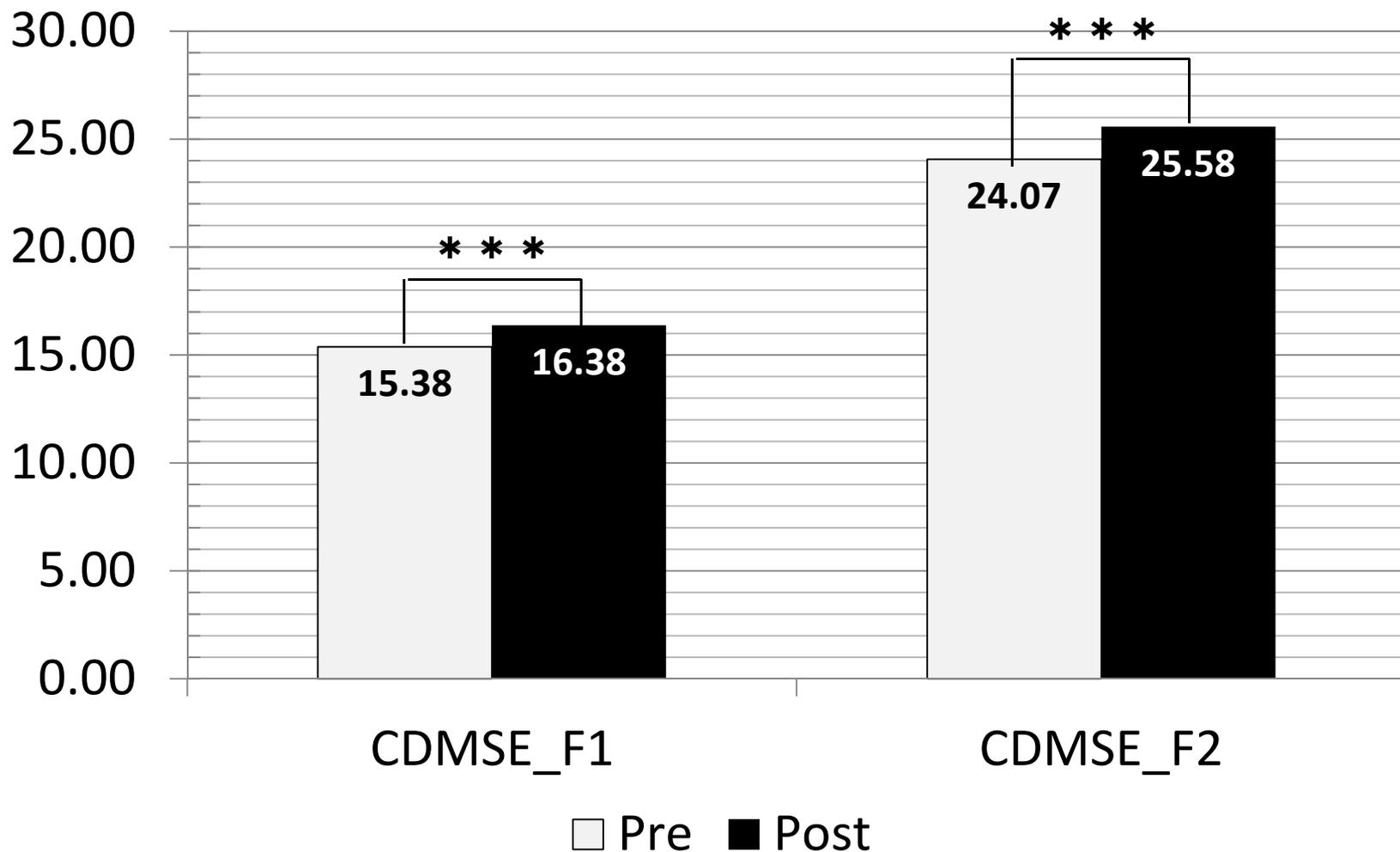


Figure4 CDMSE得点(利用開始直後－3か月後)

3カ月後の進路未決定者－決定者の分散分析

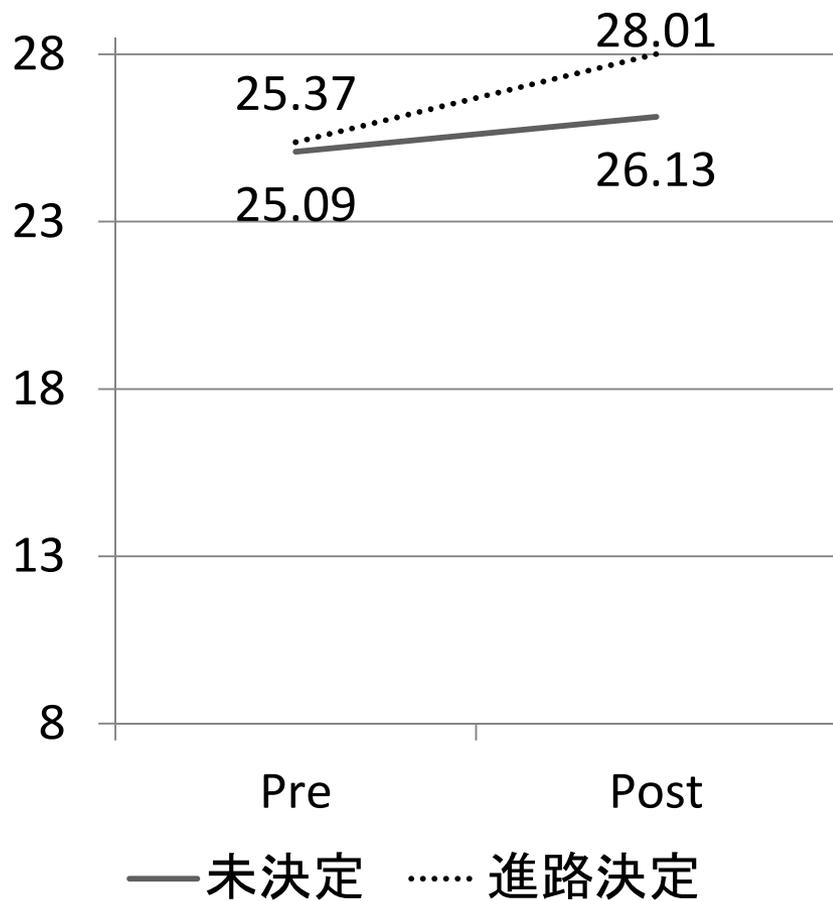


Figure5 KISS_F2 $p < .01$

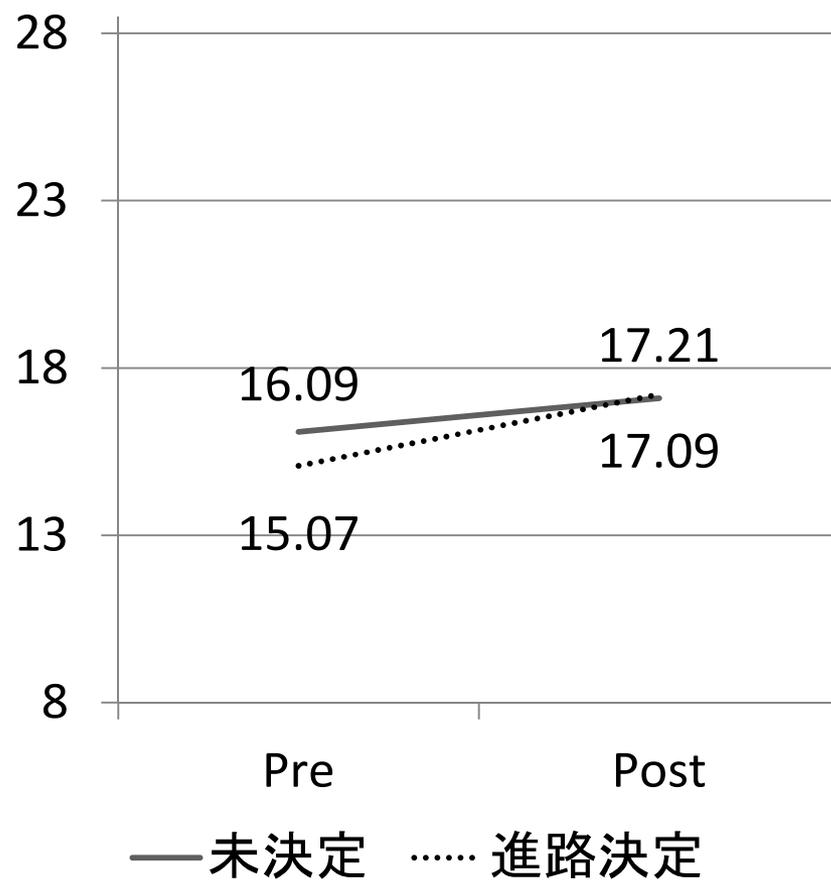


Figure6 LCR_F1 $p < .05$

3カ月後の進路未決定者－決定者の分散分析

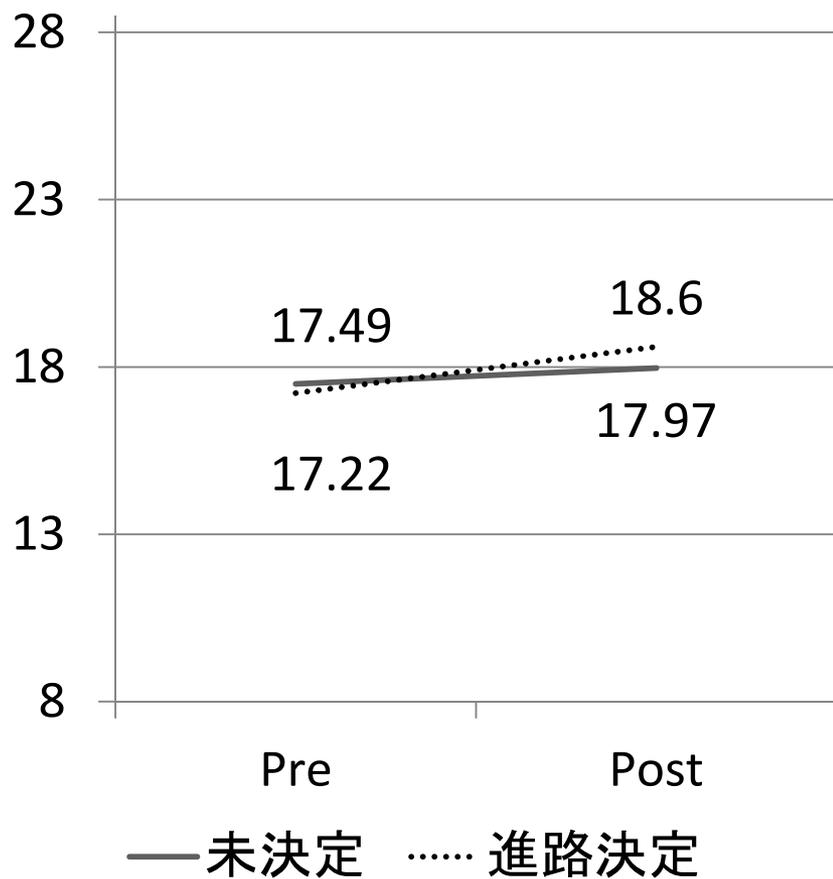


Figure7 LCR_F2 $p < .05$

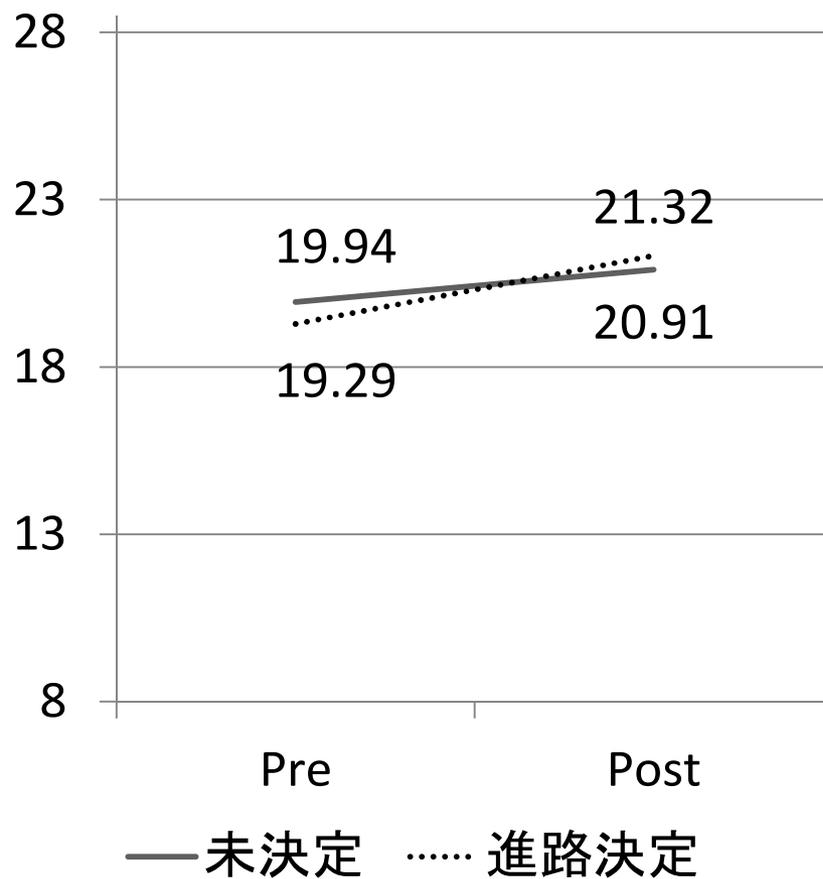


Figure8 LCR_F3 $p < .05$

3カ月後の進路未決定者－決定者の分散分析

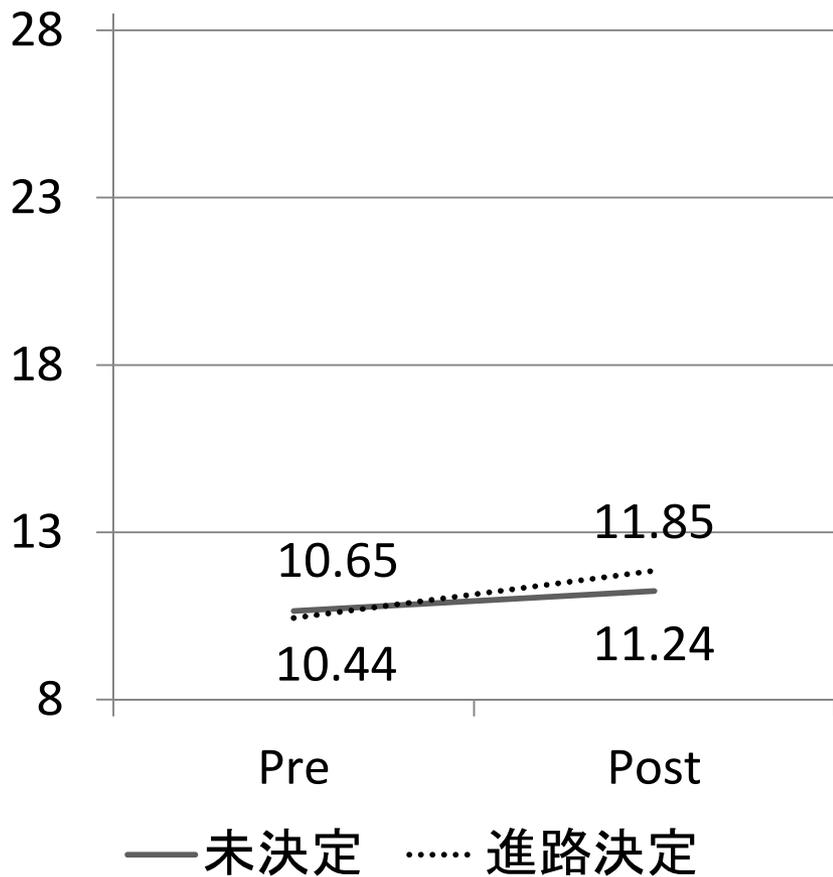


Figure9 OCR_F3 $p < .05$

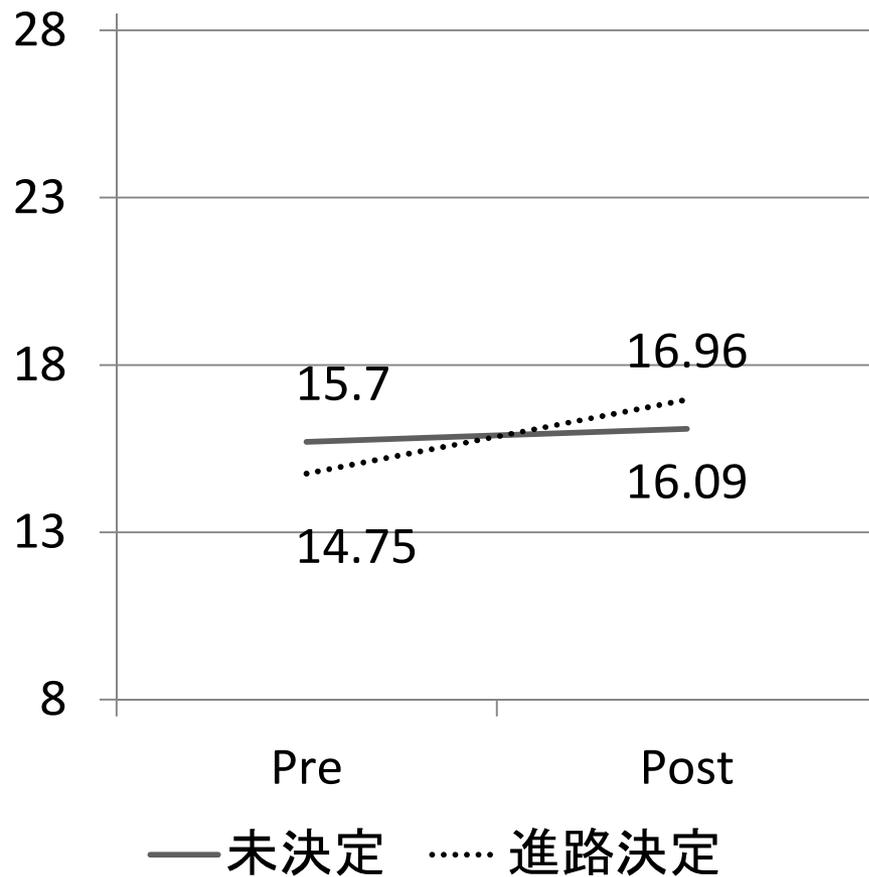


Figure10 CDMSE-U:J_F1 $p < .001$

3カ月後の進路未決定者—決定者の分散分析

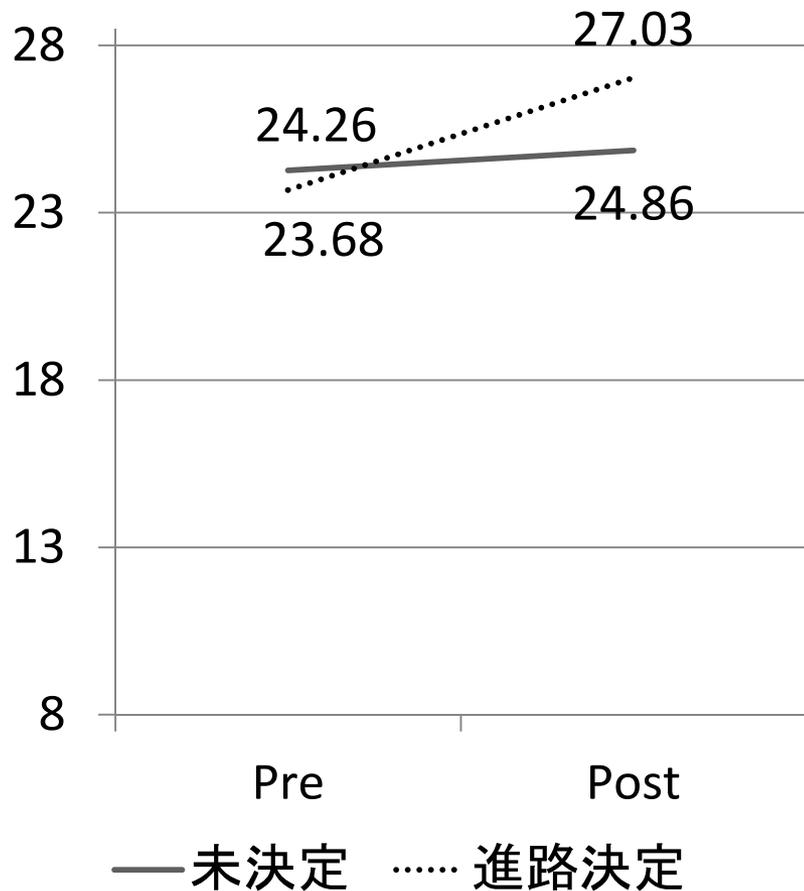


Figure11 CDMSE—U:J_F2 $p < .001$

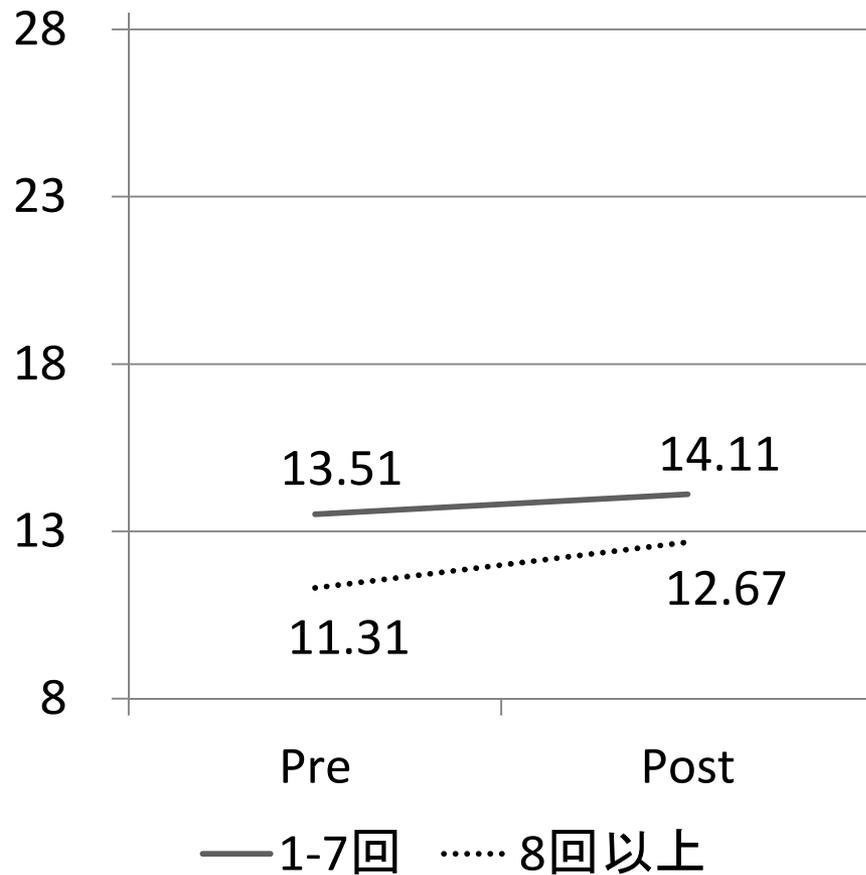


Figure12 Kiss_F1 $p < .05$

3か月間のキャリア・コンサルティング回数による分散分析

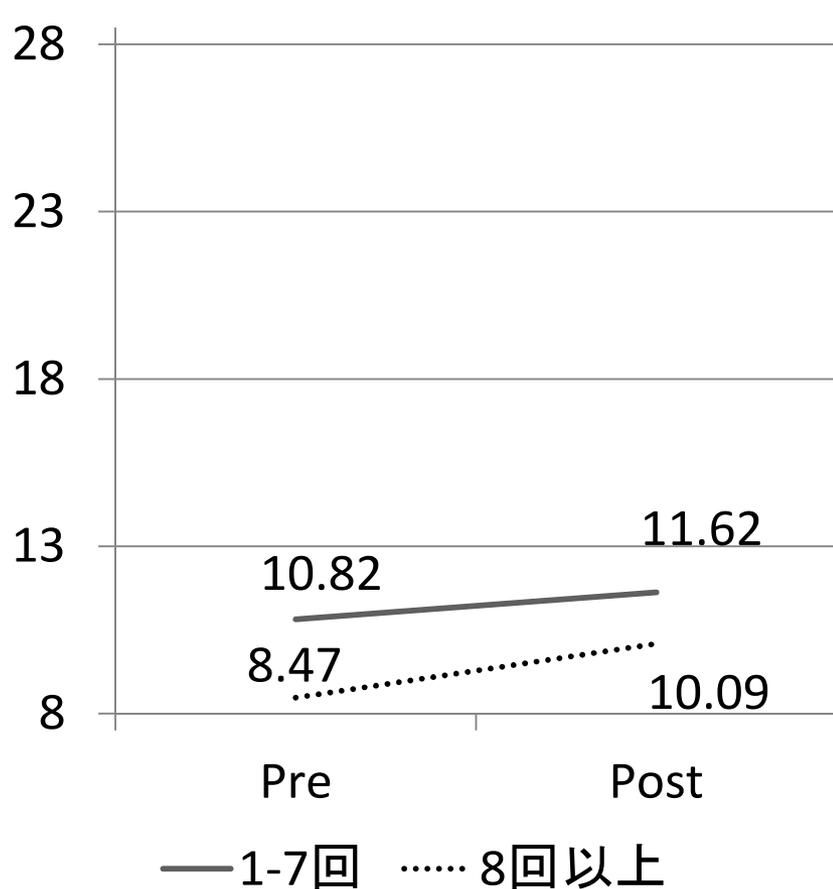


Figure13 Kiss_F3 $p < .05$

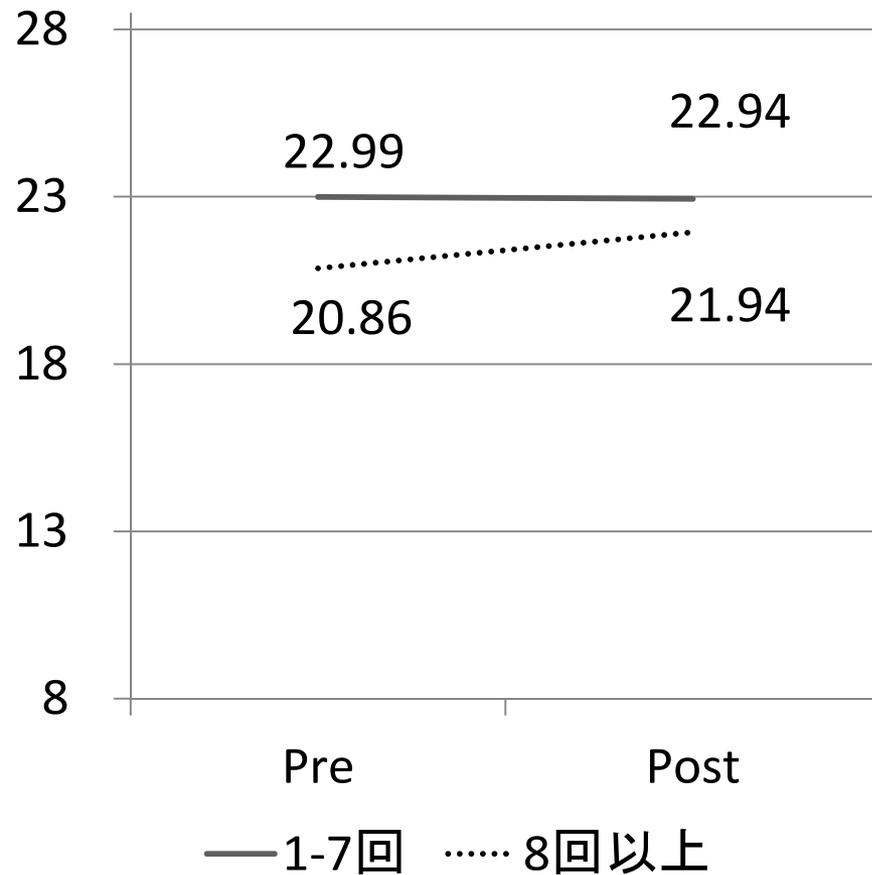


Figure14 OCR_F2 $p < .01$

グループワーク参加回数による分散分析

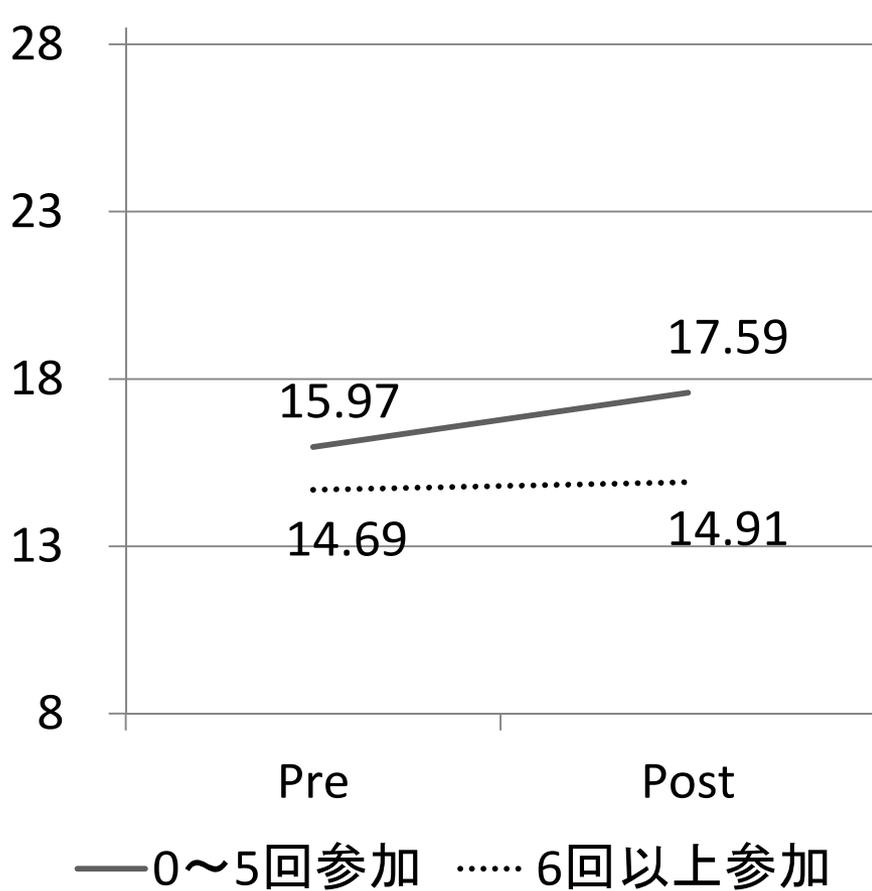


Figure16 LCR_F3 $p < .05$

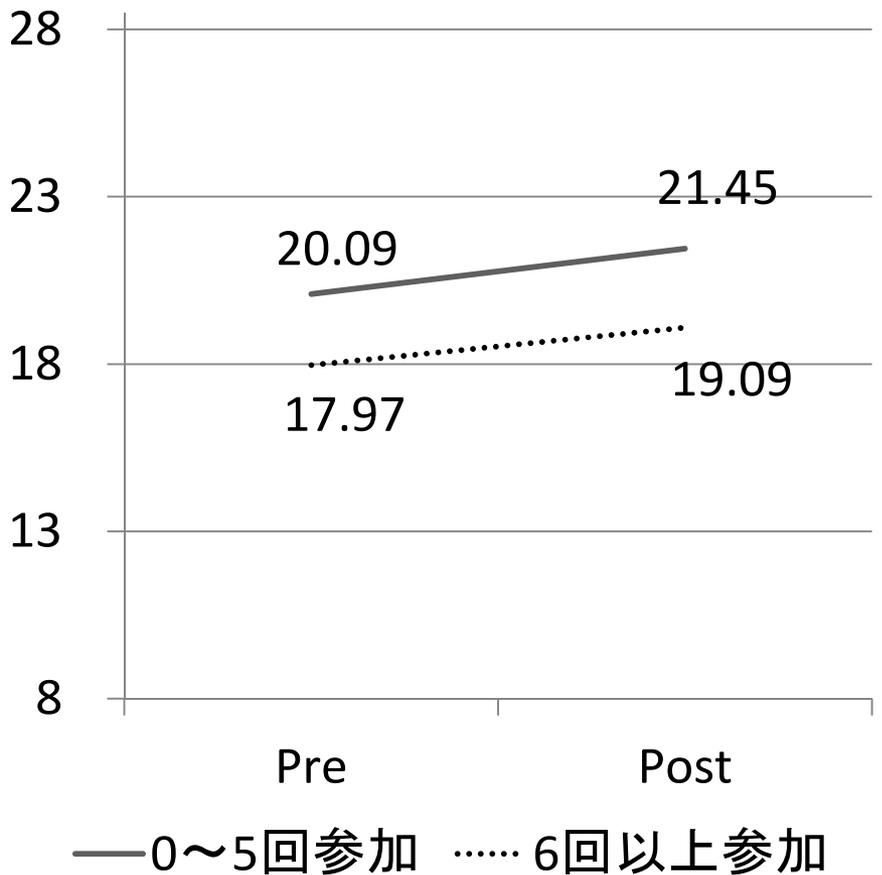
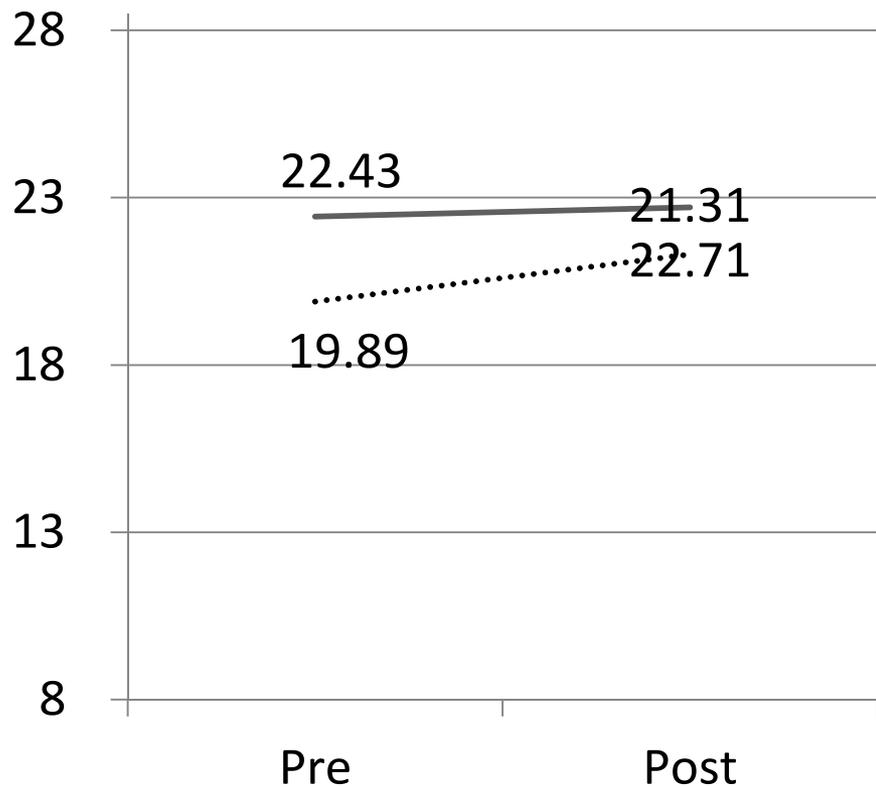


Figure15 LCR_F1 $p < .05$

グループワーク参加回数による分散分析



— 0~5回参加 6回以上参加

Figure17 OCR_F2 $p < .05$